

南牧村の戦国ロマン

甲信勢双方のせめぎ合いの地



大芝橋より海ノ口城方面を望む。左から2つ目のピークが海ノ口城にあたる。

みな福

の

ほお
と
言っ
ちゃ
う

こ
こ
だ
け
情
報

第10号

長野県と山梨県の県境であり、佐久甲州道沿いの要所である南牧村は、戦国時代でも濃勢と甲斐勢がせめぎ合った地でもありません。その拠点となったのが、武田信玄の初陣の地とも言われる海ノ口城。そして海尻城です。お城といっても、天守が簷えるようなものではなく、地形を巧みに利用した山城や平山城です。若葉や紅葉の頃の山々も素敵なですが、木々の葉が出てくる前の季節の山は、その地形やお城としての防の工夫など（縄張）の様子がとてもわかりやすくあります。必要に応じて防寒具や登山グッズを用意して、出かけてみてはいかがでしょう。

地元では、正月であつても油断をしないように門松を立てないという風習も残っている。



大岩が特徴的な主郭



岩の上に立つ東屋

①海ノ口城（鳥井城）
武田信玄の初陣を飾ったといわれています。『甲陽軍鑑』によると、天文5（一五二六）年に甲斐の武田信虎が嫡男の晴信（のちの信玄）とともに海ノ口城を攻め寄せましたが、佐久に本拠を持つ平賀源心の守りによって攻め落とせず、正月を目前にして退去しました。しかし、晴信は夜中に取って返し、少数の手勢で攻め落としました。正月の準備などで手勢を解散させていた平賀源心の不意をついたと言われています。

JR佐久海ノ口駅からは徒歩50分、登り口にある駐車場からは30分で主郭（頂上）に辿りつきます。険しい山道のため、雪などのない春先から夏のシーズンがおすすすめです。

③平賀源心洞家
勝利の後、甲州への帰還の際に、この地で平賀源心を祀ったとされています。平沢峠近くの街道沿いにあります。



②海尻城
八ヶ岳から東に延びる尾根の先端部、千曲川と大月川に東北を守られた海尻城は、武田信玄の初陣の4年後の天文9（一五四〇）年に、信濃勢と甲州勢の攻防がありました。この戦いで勝利した甲州勢は以降、海尻城を足掛かりにして、佐久地域の侵攻を開始しています。国道沿いの医王院から、境内左の斜面を上がると徒歩10分ほどで主郭に到着します。



主郭にある城址碑



主郭手前の曲輪の東屋

今回のレポーター



こんにちは。科学大好き、歴史も大好き、知性派ふくろうの福男です。南牧村は天文台などの研究施設を有し、また、縄文遺跡の調査が行われるなど、学術研究が盛んな所です。研究の紹介や、村の歴史、自然観察の情報など、わかりやすくお伝えします。

発行年月日
2023年4月25日

発行人
野辺山観光案内所